



つばさだより

No.215

2012年10月



つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	こごた店	☎0229(31)2550
玉川店	☎022(365)2838		

日本人に多いとされる胃がん。その原因として注目されているのが「ピロリ菌」です。一人でも多くの人がこの菌の存在を知り、また除菌することで胃がんの発生率が抑えられるかもしれません。大切な自分や家族の体のことを考えるためにも、ピロリ菌について考えてみましょう。



●ピロリ菌とは

ピロリ菌は胃の中に長く住みつく細菌で、ヘリコバクター・ピロリ「ヘリコバクター・ピロリ」といいます。ヘリコとはらせんという意味を持ち、菌が2～3回ねじれた形をしているためです。バクターは細菌のことです。また、「ピロリ」とは胃の出口に近い幽門部のことを指すピロルスで発見されたことから名付けられました。

口から侵入し、胃に長く住み着くことで「胃潰瘍」や「十二指腸潰瘍」だけでなく「胃がん」の最大の原因にもなります。

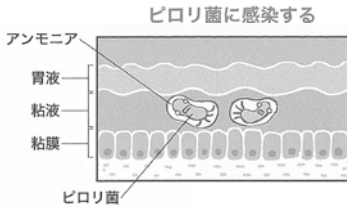
日本人の約半数がピロリ菌に感染しており、その大部分は衛生状態がよくない時代に感染した50歳以上の人たちで若い年代への感染率は非常に低くなっています。

●ピロリ菌に感染すると

ピロリ菌は、強い酸性の胃酸から身を守るため、アルカリ性のアンモニアをまとめています。このアンモニアやピロリ菌の作り出す毒素によって、胃の粘膜が障害され、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などが発症しやすくなるのです。

ピロリ菌に感染するとどうなるの？

徐々に胃の粘膜が障害されて、胃潰瘍や胃がんが
起こりやすくなります



胃酸を含む胃液によって粘膜が溶かされないように、粘膜の表面は粘液で覆われている。ピロリ菌は、粘液の中に住み着く。アルカリ性のアンモニアをつかって身にまとうことで、強い酸性の胃酸から身を守っている。

慢性胃炎が
起こる

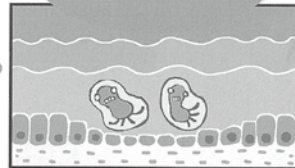


ピロリ菌がつくり出すアンモニアや毒素によって、胃の粘膜が障害され、慢性的な炎症が起こる。

十二指腸
潰瘍

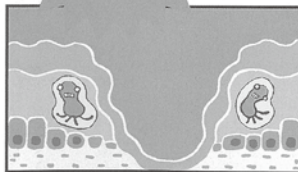
慢性的な炎症によって、十二指腸の粘膜の修復力が弱まると、胃酸の影響が現れやすくなり、潰瘍ができる。

胃の粘膜が壊されて
萎縮性胃炎が起こる



ピロリ菌が長く住み続けると、胃の粘膜の表面の細胞が破壊されて、「萎縮性胃炎」が起こる。

胃潰瘍



胃の粘膜の修復力が弱まると、粘膜の破壊が進み、やがて粘膜に穴があいてしまう。これが胃潰瘍。

胃がん

萎縮性胃炎が進むと、粘膜が「発がん物質」の影響を受けやすくなり、胃がんが発生しやすくなる。

●ピロリ菌の検査

ピロリ菌に感染しているかどうかを調べる検査には、「内視鏡検査」と「一般検査」があります。一般検査には3種類（尿素呼吸試験、便中抗原検査、抗体検査）があり、このうち2種類以上を受け、その結果で判断することがのぞましいとされています。特に検査が勧められるのは、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんなどが疑われる人です。空腹時にみぞおちの痛みがあって、めまいやふらつきなどの貧血症状を伴ったり、吐血や黒い便が出るような人はこれらの病気が疑われるため内視鏡検査に加えて、ピロリ菌の検査を受けることが大切です。

《一般検査》

尿素呼気試験 ピロリ菌は尿素をアンモニアと二酸化炭素に分解します。この性質を利用し、尿素を含む検査液を使って、ピロリ菌の有無を判定します。

便中抗原検査 胃の粘液に住み着いたピロリ菌の一部は、便として排出されるため、便を調べて判定します。

抗体検査 血液や尿を採取し、ピロリ菌に対する抗体を調べて判定します。

《内視鏡生検検査》

迅速ウレアーゼ試験 試験液の色がピロリ菌のウレアーゼの働きで変わるかどうかを見て判定します。

組織鏡検法 内視鏡時に採取した組織を染色して顕微鏡でピロリ菌を探して判定します。

培養法 胃の粘膜を採取してすりつぶし、5～7日培養して判定します。

●ピロリ菌の除菌療法

ピロリ菌の感染が判明した場合には、2種類の「抗菌薬」と、胃酸の分泌を抑える「プロトンポンプ阻害薬」を使った除菌が行われます。

一次除菌で失敗した場合でも、2次除菌を行うと約9割の人が成功するため両者を併せると成功率は95%以上です。

除菌療法の副作用で最も多いのは、「軟便」や「下痢」で、「味覚障害」も3割ほどの人に現れます。ただし、これらの副作用は1週間程度で治まるため、症状が現れていても治療は継続されます。ごくまれに「アナフィラキシーショック」などの重篤なアレルギー症状や、血便を伴う「血性大腸炎」が起きることがあり、この場合には治療が中止されます。

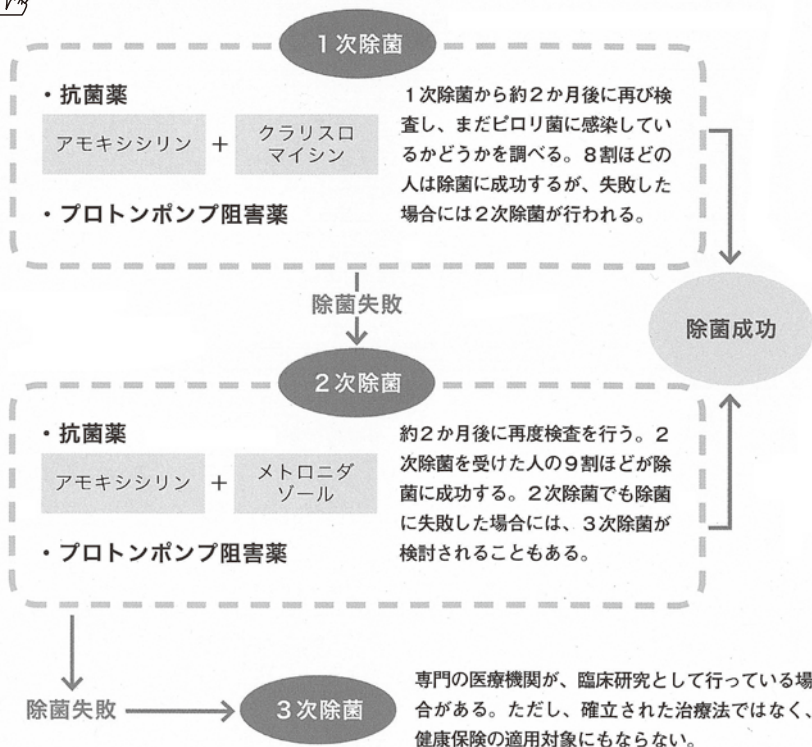
除菌に成功したひとが、再びピロリ菌に感染することはほとんどありません。そのため、除菌が成功すると、胃潰瘍の治療だけでなく、再発予防もできるのです。

健康保険の適応となるのは胃・十二指腸潰瘍に加え、胃にできるリンパ球のがん・胃マルトリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病の治療と、早期胃がんの内視鏡手術後の患者に対する再発予防を目的とした除菌においてです。

ピロリ菌の除菌療法



ピロリ菌の除菌療法は、下図のような流れで行われ、95%以上の人が除菌に成功する。3種類の薬を1日2回、7日間服用するのが基本。



「胃の症状がなく、胃がん予防のためピロリ菌の有無を調べ、菌がいれば除菌がしたい」という場合には健康保険の適用にならず、かかる費用は全額自己負担になります。

高齢になってからピロリ菌を除菌した場合、胃がんになる危険率は下がりますがゼロにはなりません。長年蓄積された胃のダメージが残るからです。除菌後もきちんと医師と相談の上、胃がん検診を受けるようにしましょう。

参考資料：今日の健康 2011.1 2011.5 2011.7 大塚製薬ホームページ
ピロリ菌事典ホームページ 武田薬品工業株式会社ホームページ

11月の栄養相談予定

(各店10:00～12:00開催です)

- ・ 1日 (木) 若林
- ・ 5日 (月) 古川
- ・ 7日 (水) 玉川
- ・ 9日 (金) 松陽台
- ・ 13日 (火) 多賀城
- ・ 15日 (木) 泉
- ・ 19日 (月) こごた
- ・ 21日 (水) 長町
- ・ 27日 (火) 松島
- ・ 29日 (木) 中新田